

庶民大增税やめさせよう

消費税10%など、とんでもない！

民主党・野田内閣は、「社会保障と税の一体改革」と称して消費税を10%に引き上げる、年金、医療、介護は改悪するとの方針を打ち出しました。自民党は民主党を批判していますが、「公約に反している」と言っているだけで、もともと増税を公約にしている元祖です。民主と自民の違いは、「増税してから選挙」か、「選挙してから増税」かという程度で、どちらも国民の暮らしを圧迫する大增税の推進派です。

さらに税制改悪、目白押し

消費税をなくす鈴鹿各界連絡会が、15日に学習会を開きました。講師の税理士・浦野広明さんは、多くの問題点を指摘しました。日本の消費税は生活すべてにかけるので、税率17.5%でも生活関係を非課税にしているイギリスよりも高い。政府は消費税だけでなく、給与所得控除を大きく引き下げる、年金控除も引き下げる、などサラリーマンや年金生活者の大增税をすすめて



ベルシティ前で宣伝活動(21日)

いる。一方で法人税は30%を25.5%に引き下げ、大企業優遇策を続けている。また輸出大企業に巨額の消費税還付金、トヨタ1社だけで2246億円も返してやっている。共通番号制度の導入と罰則の強化をすすめている。

消費税をはじめとする庶民大增税が行なわれれば、暮らしはさらに圧迫されます。みんなで「増税反対」の声を高めて、ストップさせましょう。

楽しく鈴鹿市後援会「新春のつどい」

22日、ジェフリー鈴鹿ホールで、共産党鈴鹿市後援会の「新春のつどい」が開かれ、今年中にも予想される衆議院選挙での共産党の前進を期して、にぎやかで楽しい催しとなりました。

前半はコーラスグループ「ミルフィュー」のすてきな歌声と、伊藤あきよしさんのマジックショーを楽しみました。後半は辻井後援会長のあいさつ、私たち市議団の議会報告、そして中野たけし北勢地区委員長が、暮らしを守り政治を変えるために、日本共産党が前進すること、全国で得票650万票、鈴鹿市で8000票を超えるように頑張る決意を述べました。



ハイ！ハトが出ましたよ

今年が鈴鹿市が誕生して70周年

1942年12月1日、2町12カ村が合併して「鈴鹿市」が発足しました。今年2012年は、ちょうど市制施行70周年という記念の年になります。市は記念の事業を計画すると共に、市民からの企画による記念事業も募集しています。市内あちこちに「70周年」ののぼり旗が目立つようになってきました。

「軍都」としてスタートし、戦後は産業都市に

戦時中のこの時期に鈴鹿市が出来たのは、海軍工廠などの軍施設が多くこの地域に進出したことが要因でした。当時の内務省調査官が「当市のように中心となるべき都市のない合併は前例がない」と驚いたことが、市史に記されています。現在に至っても、どこが中心かハッキリしない街になっているのは、この特殊事情によるものです。70周年にあたって、この「軍都」であったことを忘れないことが、大事なことだと思います。

もう一つ、2002年12月議会で、四日市市との合併を「反対18、賛成12」で否決したことも忘れてはなりません。「鈴鹿市を守った」この時の頑張りがあって、今の70周年があるのですから。

介護保険料、4月から大幅アップか？

2012年度から3年間の「第5期介護保険事業計画」が策定されていますが、その計画の中で65才以上の「第1号被保険者」が負担する介護保険料が、大きく引き上げられそうです。

介護保険を運営する鈴鹿亀山地区広域連合の第5期計画（素案）では、3年間にかかる介護給付費などの総額は437億円、第4期の354億円から23.4%増えます。高齢者人口も増えますが11%ほどの伸びで、その増加分の差だけ一人当たりの費用がぐっと高くなります。そのまま試算していくと、介護保険料も現在の標準月額4000円が、月5000円近くになってしまいます。厚生労働省の試算でも、全国平均が現在の4160円から5000円を超えると予想されています。

わずかな年金から容赦なく天引きされる介護保険料が、これ以上値上げされれば、高齢者の生活はさらに苦しくなります。年々ふえる介護給付費を高齢者の負担に転嫁するのは、もう限界です。国が2割しか負担しないという制度の根本矛盾を見直さなければなりません。また、県市が財政措置によって、負担軽減を行なうことも求められます。

「脳ドック」を初めて受けました

1月12日、塩川病院で「脳ドック」を受けました。国保の健診事業として行なわれているものですが、希望者に対して定員（600人）が少なく、抽選に当たると受診できます。私も毎年応募していましたがなかなか当たらず、今回やっと当選しました。夏に通知をもらって病院に予約をとっても、年内はいっぱいとのことで、やっと1月に受診となりました。

検査はMRIという大きな装置のトンネルの中に、1時間ほど入って行なわれます。まったく身動きできない上に、ガンガンと騒音のような音がつついて、不安と緊張の時間を過ごしました。例えて言うと、お寺の鐘の中に入って外から鐘を叩かれているような感じです。

検査の結果は後日ということで、何も無いことを願います。しかし、何か異常があったとしたら、早期発見、早期治療で助かることが出来ます。その後にかかる医療費、介護費用、生活上の不利益を未然に防げるのなら、自己負担の1万4千円（市が2万円負担）は、高いけれどやむを得ないところです。多くの皆さんが、一度は受診することをおすすめします。

ずいそう



「運命の人」と沖縄

山崎豊子著「運命の人」4巻（文春文庫）は、ちょうどテレビドラマになって進行中であり、また、民主党政府が沖縄の普天間基地移転問題で右往左往を繰り返している、その元となる1971～72年の沖縄本土復帰の裏側を描いたものであることから、注目されベストセラーになっている。

「運命の人」は、毎日新聞の元記者・西山氏をモデルとした小説である。主人公は日本政府の中枢、外務省や国会を第一線で取材するなかで、沖縄の日本への返還が、米軍基地をほとんど残すなど不平等で屈辱的なものであることを追及していた。そして、返還交渉の裏で、日米の密約があることをつかみ、その証拠文書を入手した。しかし国会で文書が暴露されたことから一転、「日米密約事件」は「機密漏洩事件」にすり替えられ、記者は国家権力によって犯罪者・被告とされ追放されてしまう。

あの40年前の事件は、いまでも終わっていない

この物語の舞台となった1971年という年は、私が大学に入り、盛り上がっていた沖縄返還運動によって社会や政治への目を開かれた、思い出深い年である。71年に結ばれた沖縄返還協定に、日本に戻ろうと祖国復帰運動を続けてきた沖縄の人々が反対したのは、米軍基地が今後も居座り続けるその内容への抗議からであった。私たちは「核も基地もない平和な沖縄」を取り戻そうとの運動に参加した。72年5月15日の返還記念式典の日も、静岡市内のデモに加わっていたことを思い出す。

40年たった今、沖縄は街並みも近代化され、モノレールや高速道路が整備されて一見「本土」と変わらない風景になっている。しかし、一步街から出ると、広大な米軍基地が依然として広がっているし、上空をジェット機やヘリコプターが轟音を立てて飛びかっている。「密約」で日本が負担した米軍の経費は、いまや堂々と「思いやり予算」として使われている。

作者は第4巻で晩年の主人公を、モデルの西山氏とは設定を変えて、沖縄に移り住まわせている。そしていまでも絶えない米軍による犯罪や事故、それに抗議してたたかう県民の姿を描いて、72年に起きた事件が今も終わっていないことを訴えているのである。